

する機会もなかった。瞬発力を得るため、日に1万歩のウォーキングを目標している。高齢男性の集まり「シルバー男の

定年後は非常勤をして、地域の友人と交流する機会が増えた。まず

は大変な力仕事で、スポーツの循環を良くする。また食物繊維も豊かで、私は腰が痛くなつたと、話は糖尿病経験もあり、友

は感謝している。

自由の声

自由の声

紙面

拝見

休日には家族連れやカップルも多くの人たちが訪れて楽しんでいる。海や公園、歴史的建物、中華街、ショッピングエリア、横浜は穏やかで美しいさまざまな個性が息づいている街だと思ふ。その中に、カジノができたらどうなるだろう。

そんなことを考えるのも、昨年12月に、カジノを中心とする統合型リゾート施設（IR）整備推進法（カジノ法）が国会を通過して、にわかカジノが現実味を帯びてきたからである。しかも、林文子横浜市長が現在はトーンダウンしているものの、昨年12月段階ではカジノ誘致に前向きな意向を示し（4月5日付2面）、黒岩祐治知事が誘致



弁護士 芳野 直子

弁護士

横浜の個性を生かせ

を決めた地元自治体には全面的に支援する考えを示していることもあり（2月18日付同）、カジノの横浜招致はリアルに迫ってきている問題なのである。

カジノについては、ギャンブル依存症対策の問題として多く議論され、いまだに対策が不十分であると批判されている。本紙でもカジノに関してはギャンブル依存症対策についての国民

視点を委ねて、自分の住む横浜の地に実際にできるところなるかをイメージしてみたい。

まず、カジノ法はカジノだけではなく、カジノの収益を基軸としてホテルやショッピングセンターなどが一体となったIRを造るとしている。横浜はさまざまな顔を持つが、IRですべて満たされ、客を囲い込むこと

の不安要素をすべて払拭しなければならぬと対策の重要性を説いている（2月22日付社説）。

まづかもしれない。また、多重債務者が増えることも予想され、施設の外に出るのは、借金しに行く時だけなん

一番の依存症対策はギャンブル環境をなくすことだと思ふのだが、現実には、カジノ整備に向けて政府の初会合が行われ（4月5日付1面）、依存症対策を整えさせればカジノを造ることが所与の前提のように扱われてきている。そこで、少し

街づくりというのは、市民が時間をかけてじっくり形成し、子どもたちに引き継いでいくものである。真の意味で豊かな地

変化球

辞任へ
自己責任で
——今村復興相
(役たたず君)

▽引用 本紙の新聞記事は掲載日、他紙は紙名も書いてください。書籍は書名のほか著者名も記してください。
▽読み仮名 地名、寺院など施設名、人名など難読字や複数の読みが考えられるもの

投稿時の
お願

休まず

